

静岡県漁業協同組合連合会

1013 静岡市追手町 9-18
14.10.4 ☎ 054-254-6011
編集・発行 = 指導部漁政課

1. 平成14年度県漁協組合長会議・研修会開催

本会では、去る9月26・27日の両日伊豆長岡町において、平成14年度漁協組合長会議及び組合長研修会を開催しました。

26日は研修会が行われ、JF全漁連常務理事 宮原邦之氏による「JFグループの事業・組織・経営改革に向けた運動方針について」、次にJF全漁連顧問弁護士 成田健治氏による「油濁事故の法的初動体制及びナホトカ号事故の実状について」と題した講演が行われました。また、県漁船保険組合専務理事 井上實氏より「漁港を利用するプレジャーボートの航行等の秩序維持と賠償責任保険の確保」についての要望取組みについて報告があり、制度の確立に向けて運動を展開したい旨の方針説明がありました。

翌27日には、昨年の組合長会議で提起された8項目の要望事項に対する措置状況及び平成14年度県水産予算要望に対する措置状況について各々報告が行われ、引続き本年度県下漁協巡回結果及び提出問題について協議した結果、次の項目について要望、若しくは自ら取組みをして行くことになりました。 漁協合併・市場統合等組織再編整備への新たな取組みについて 磯根を守る密漁防止対策の推進について 本県沿岸域における油流出事故対策について 全国におけるシラス鰻の漁獲管理制度の確立とシラス鰻の海外流出防止について 都田川ダムの取水計画見直しについて 浜名湖今切口の安全対策について

なお、これら要望事項については、今後実行委員会での協議を経て、県等関係機関に陳情していくこととしています。また、賀茂地区運営委員会より来る10月20日下田市において開催される「海の子フェスタ2002」について県連団体及び県内漁協や青壮年部、婦人部への協力依頼があり、最後に全国漁業共済組合連合会常務理事 佐藤正敏氏による「ぎょさい制度の特性について」と題した講演が行われ閉会しました。

2. 平成14年度(第17回)漁協運動功労者表彰 本県から2名決まる

全国漁業協同組合連合会(植村正治会長)では、去る9月18日「漁協運動功労者表彰審査委員会」を開催し、本年度の漁協運動功労者42名の表彰を決定しました。

本県関係では、先に本会並びに県信漁連より推薦した相良町漁協組合長 名波源四郎氏が、榛南地区の海藻類の磯焼け対策など地域漁業の生産基盤の確立及び組合員の経済的・社会的地位の向上や、相良町内3漁協の合併推進、県連漁業団体の役員として県下漁業の振興・発展と漁協組織の育成、強化に貢献した功績が認められました。

また、静岡県漁協婦人部連合会会長 種石幸枝氏は焼津漁協婦人会会長、静岡県漁婦連

会長として優れた指導力、実行力を発揮し自ら率先して漁協貯蓄推進運動等漁協事業に協力、魚食普及、合成洗剤追放、漁船海難遺児育英募金運動の推進、漁民の森植林活動を通じて海の環境保全等諸活動を行い、本県漁業振興、漁村婦人の社会的地位の向上、漁協組織の強化発展に貢献した功績が認められ表彰の荣誉に輝きました。

なお、表彰式はJF全漁連創立50周年式典と併せ11月21日(木)東京・ホテルニューオータニにおいて執り行われます。

3. 本会テングサ共販第5回入札会開催される

本会では、去る9月25日賀茂出張所においてテングサ事業の第5回入札会を開催し、入札結果は次のとおりです。

数量：9,250kg(374本) 取扱金額：11,210千円 平均単価：12,118円(10kg当たり)
最高入札価格：大川、白田まくさ(粗)16,520円(10kg当たり)

この結果、第5回までの取扱累計は数量76,306kg、3,063本(対前年比8,855kg、359本増)取扱金額69,292千円(同7,710千円増)、平均単価8,661円(同49円安)となりました。

なお、本年最後(第6回)の入札会は10月9日(水)を予定しています。

4. マサバ養殖が本格化

九州地区養殖業界ではブリ、タイ、カンパチ、フグなどの魚価が伸び悩む中で、これらに次ぐ新しい魚種としてマサバが脚光を浴びています。

マサバ養殖は4~5年前から宮崎地区でテスト的に始められましたが、現在、大分、宮崎、長崎に拡大し全体で推定養殖尾数は100万尾に達しているものと推定されています。

特に大分県の豊後水道域で漁獲されるマサバは、全国的に関サバ、関アジとして知名度が高く、養殖サバの稚魚も地元の定置網で漁獲されるなど比較的入手が簡単なことから新しい養殖漁業への取組みとしてマサバの養殖が活発化してきました。

ある養殖漁業生産組合では、9月に定置網にかかった約300~400gの幼魚を確保し、約1年で700~800gサイズまで養殖し「黄金サバ」として関東地区に航空便で出荷しており、西日本巻網のマサバ漁の水揚次第では今後の地域養殖漁業者のサバ養殖への進出は増加するものとみられています。

5. 県TAC(漁獲可能量) 8月末漁獲実績を発表

県では、この程TAC対象5魚種の8月末現在の漁獲実績を発表しました。

それによると、マイワシがTAC数量10,000トンに対し222トンで消化率2.2%、マサバ及びゴマサバは同8,000トンに対し2,800トンで消化率35%、またTAC数量が若干量の魚種では、サンマ213トン、マアジ1,948トン、スルメイカ265トンとなりました。

6. 諸会議・日程(10月8日(火)~10月21日(月))

- 既報分省略 -

10月10日(木)~11日(金) 県漁船保険組合 = 保険事務担当者会議 (静岡市)

10月20日(日) 海の子フェスタ実行委員会 = 海の子フェスタ2002 (下田市)